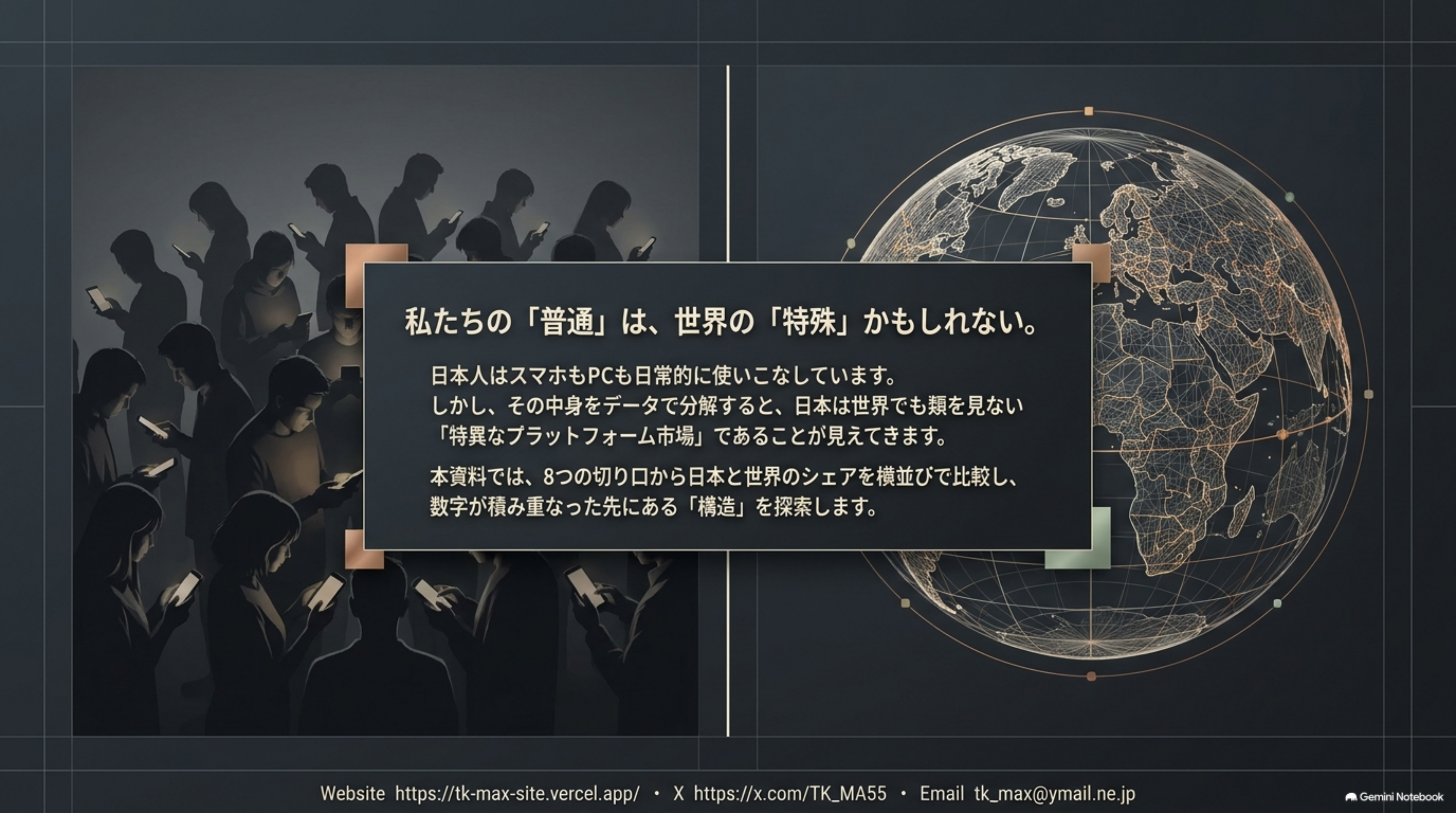


日本のデジタル依存を数字で見る

プラットフォームシェア構造ハブ — データが語る「当たり前」の裏側



私たちの「普通」は、世界の「特殊」かもしれない。

日本人はスマホもPCも日常的に使いこなしています。
しかし、その中身をデータで分解すると、日本は世界でも類を見ない
「特異なプラットフォーム市場」であることが見えてきます。

本資料では、8つの切り口から日本と世界のシェアを横並びで比較し、
数字が積み重なった先にある「構造」を探索します。

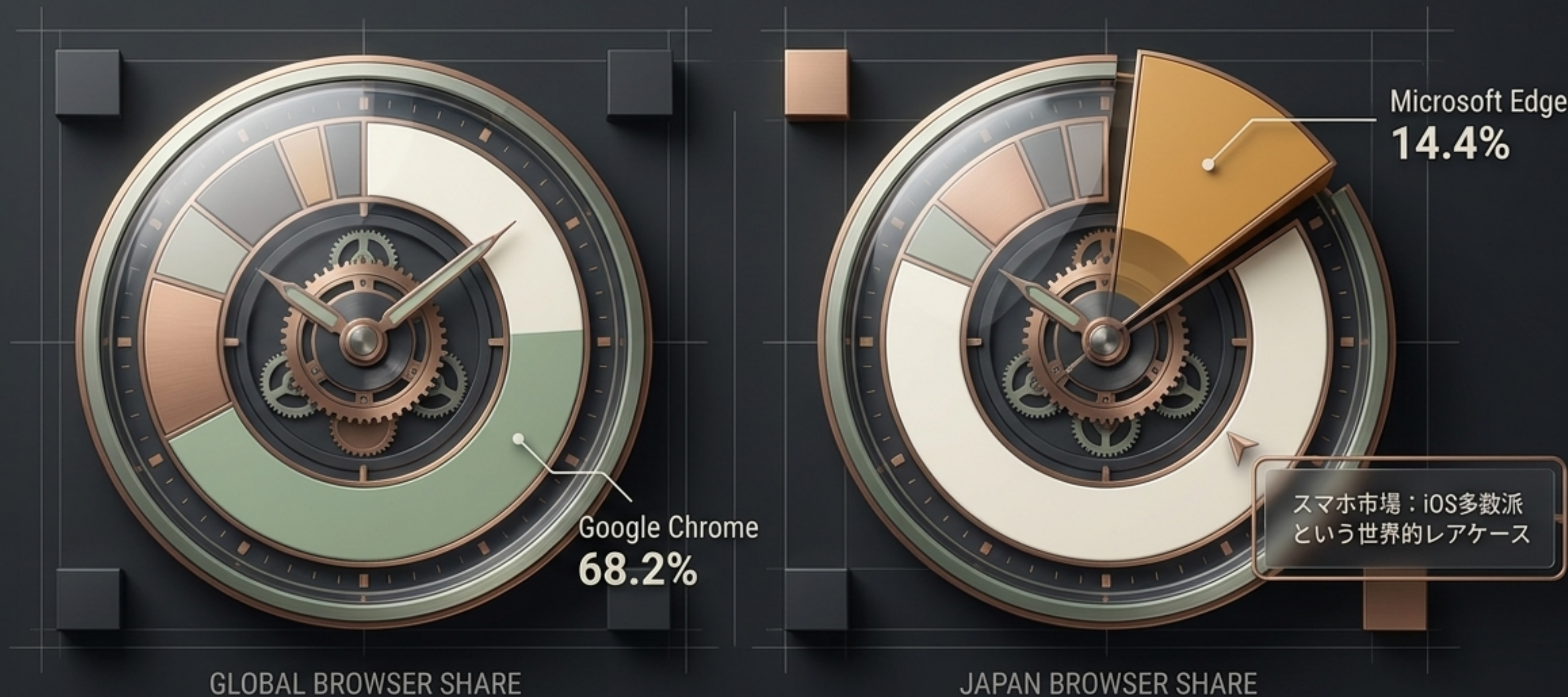
8つの切り口で読み解く 「シェア構造」

本ダッシュボードは、8つのインフラ的領域から日本と世界のシェアをリアルタイムに比較します。ここに提示されるのは単なる数字ではなく、未来の連鎖を予測し、全体像を組み立てるための「パズルのピース」です。



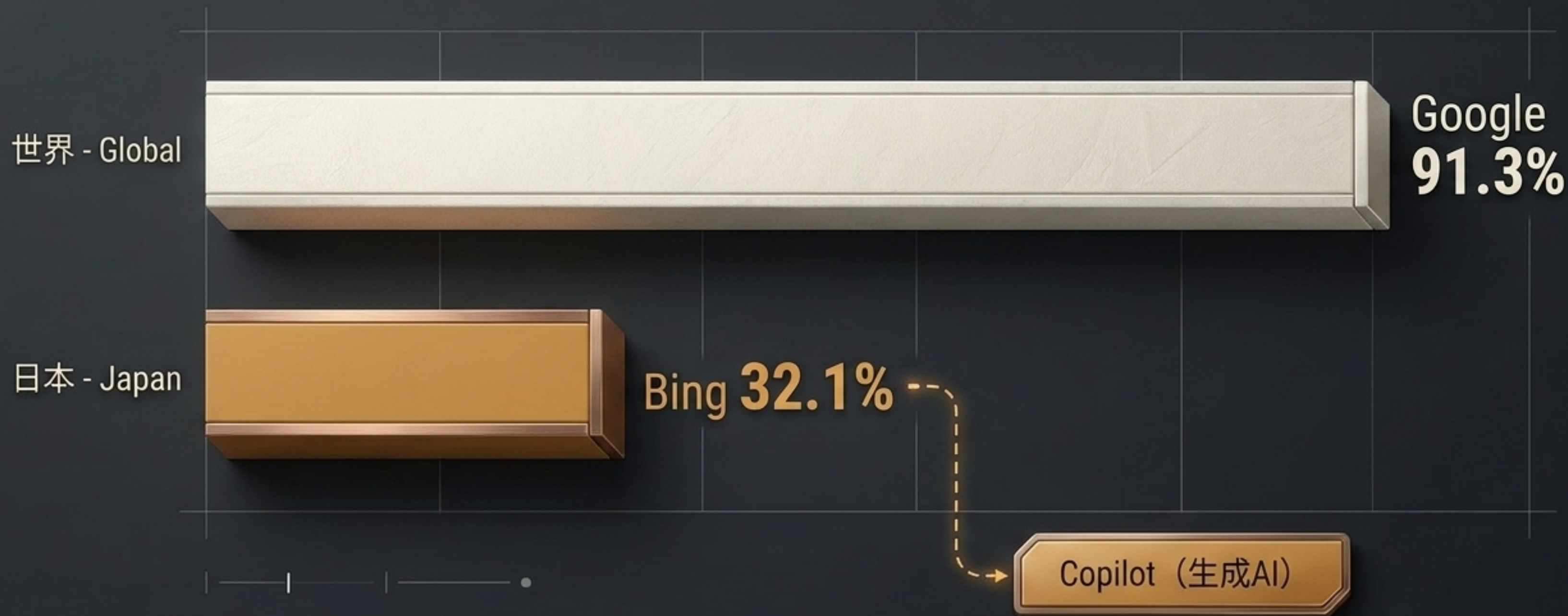
ブラウザとOSの基盤：突出する「Edge」と「iOS」

スマホ市場において、世界はAndroidが7割を占める一方、日本はiOSが多数派という世界的にも珍しい市場です。
PC環境のブラウザにおいても、世界はGoogle Chrome (68.2%) 一強ですが、日本ではMicrosoft Edgeが14.4%に達し、世界平均 (5.4%) のおよそ 2.7倍という特異なシェアを持っています。これは日本企業のWindows標準採用の高さが背景にあります。



検索エンジン：Bingのシェアが世界平均の7.2倍

検索エンジンにおける世界のGoogleシェアは91.3%ですが、日本ではBingが32.1%に達します。
この突出ぶりは、Windows PCにおけるEdgeの標準設定に加え、生成AI「Copilot」との統合が国内市場で強く影響していると考えられます。



SNS：「国内インフラ」と「世界規模」の乖離

LINEは全年代で92.9%が利用し、もはや最強の生活インフラです。しかし、WhatsApp（約33億人）やWeChat（約14.3億人）と比較すると、LINE（約1億人）の規模感は全く異なります。

「圧倒的な普及率」と「世界的な規模」は全く別の指標であることが視覚的に明らかになります。



ネット通販（EC）：三つ巴の日本、準寡占の米国

日本のEC市場は、Amazon、楽天市場、Yahoo!ショッピングの3社が流通総額でほぼ拮抗し、バランスの取れた競争を続けています。対して米国市場は、AmazonとShopifyの2社だけで市場全体の約半分（49.7%）を占有する事実上の「準寡占状態」にあります。



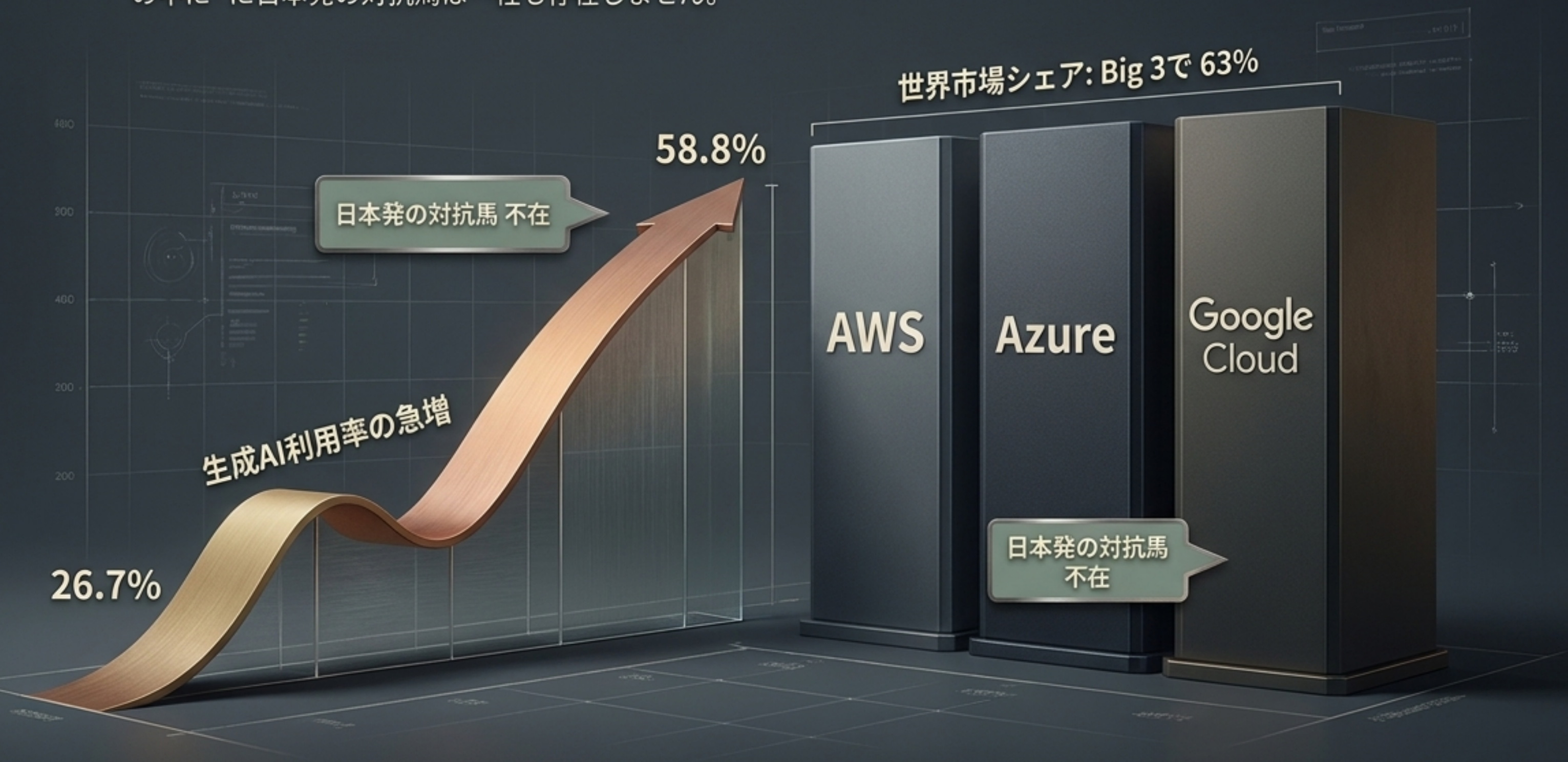
キャッシュレス：世界トップランナーとの距離

2025年現在、日本のキャッシュレス決済比率は新指標で58.0%（2030年目標は65%）。現金への根強い信頼が独自のペースを生んでいます。すでに85～90%水準に達している韓国、中国、北欧などのデジタル決済先進国先進国と比較すると、その距離は依然として開いています。



クラウドと生成AI：倍増する利用率と外資の壁

日本の生成AI個人利用率は、わずか1年で26.7%から58.8%へと倍増しました。これは前向きな変化です。しかし、その基盤となる世界のクラウドインフラ市場は「ビッグ3」が63%を支配しており、この中に日本発の対抗馬は一社も存在しません。



点と点が繋がる構造：「デジタル赤字」

個々のシェアデータは独立したものではありません。

生成AIの利用が伸びれば伸びるほど、海外プラットフォームへの支払い（クラウド利用料や広告費）が比例して増大する構造があります。

個別の数字が積み重なった結果、日本の富が海外へ流出する「デジタル赤字」のパイプラインが形成されています。

デジタル赤字：海外への継続的な富の流出



生成AI・クラウド利用の急増

海外プラットフォーム依存
(OS, 検索, クラウド)

Japan vs. Global: プラットフォーム生態系マトリックス

8つのインフラ領域における世界基準と日本市場の差異を一元化。このマトリックスは、日本のデジタル環境がいかに独自の進化を遂げているかを示す「見取り図」です。

領域	Global Standard	Japan's Reality
OS	Android Dominant (7割)	iOS Majority (特異的)
ブラウザ	Chrome一強 (68.2%)	Edgeが突出 (14.4%)
検索エンジン	Google独占 (91.3%)	Bingが高シェア (32.1%)
SNS	WhatsApp/WeChat (数十億人)	LINE (国内特化92.9%)
EC	Amazon・Shopifyによる準寡占	Amazon・楽天・Yahooの三つ巴
キャッシュレス	85~90% (決済先進国)	58.0% (独自のペース)
クラウド	Big 3が市場の63%支配	日本発の対抗馬不在

この数字を、どう受け止めるか？

この特異なデータ構造は、一つの結論には収まりません。

現金への信頼や特定のアプリを使いこなす日本社会の「独自の選好」の結果なのか。それとも、国内に代替インフラが育っていない「競争環境の課題」なのか。政策的に育てるべきか、世界標準へ統合すべきか。

見方は二分されます。

■ 視点1:「独自の選好・文化」

■ 視点2:「競争環境の欠如」

TK MAX 金融・経済レポート

本ダッシュボードは、危機を煽ることも、特定の結論を押し付けることもありません。公的データや投資銀行レポートをリアルタイムで可視化する、独立・非営利の研究用シミュレーターです。複数の未来シナリオをワンクリックで切り替え、その「ドミノ効果」を直接体感してください。



パズルを組み立てるのは、あなた自身です。

私たちは中立・不偏の立場から、
事実としてのデータを提供し続けます。

数字が積み重なった先に、
どのような未来が見えるか。

ぜひ、ダッシュボードにアクセスし、
あなた自身の目で確かめてください。



免責事項 / データソース

本ダッシュボードはStatCounter Global Stats（2026年7月）、経済産業省、総務省「令和8年版 情報通信白書」、ICT総研・comnico、Marketplace Pulse、Axis Intelligence等の公表資料に基づく独立分析・研究目的のコンテンツです。一部の国際比較の指標は算出方法・調査時点が完全には一致しておらず、厳密な同一基準での比較ではない点にご留意ください。政策提言・投資助言を目的としたものではなく、特定の企業・国・製品を推奨または非難する意図もありません。判断はすべて視聴者に委ねられます。